

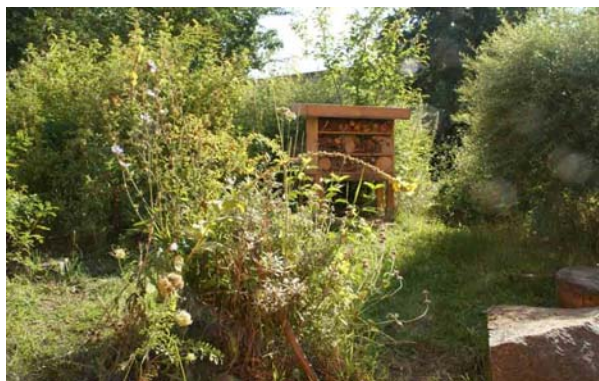
子どもの豊かな感性・思いやり・協調性を育む 自然とのふれあいを大切にするドイツの園づくりツアー2017

6月25日(日)～7月1日(土) 7日間

訪問予定の園など

ベルリン教育・青少年・科学省

ベルリン教育・青少年・科学省は、ベルリン特別市の行政機関のひとつで、保育所・幼稚園・託児所などを統括しています。教育、保育、科学の振興等を通じた人材の育成、家族や子どもの支援などを通じた市民の保護などを管轄しています。保育所・幼稚園、託児所のほか、小学校から高校までの学校教育、大学の科学部門の発展振興も担っています。移民や難民のための教育環境の確保、幼児や児童の保護、保護者への支援に取り組むほか、障害の有無などで子どもたちを分けないインクルーシブ保育・教育を奨励しています。2014年に発表した「ベルリン市保育所・幼稚園・託児所のための教育プログラム」は、持続可能な発展のための教育やインクルーシブ保育・教育を取り扱っているほか、園における自然とのふれあいや環境保全への貢献などについての項も設けています。自然環境の探検や観察といった行動は発見につながり、それは自分自身が自然の一部であることへの理解につながるとしています。子どもには、動物や水、土、茂みなどの木々、これらが存在する遊びの空間が必要だとしています。ベルリン市教育青少年科学局では、乳幼児から自然とふれあうことの重要性や子どもの心身へのプラスの効果などについてうかがいます。



保護者と子どもの保育所・幼稚園エネメネモペル

1990年創設の保育所・幼稚園エネメネモペルは、ベルリンの中心から東に約8kmのところにあります。1歳から6歳までの修学前の子どもたち約60人を13人のスタッフで対応しています。この園は2004年に同地区の別の場所から移転してきました。保護者とのつながりはその当時から深く、園舎を作る作業にも多くの保護者が手を貸してくれました。敷地が広くなったので自然とのふれあいができる園庭にしたいという希望が膨らみ、2007年に、自然豊かな園づくりの専門家である自然景観設計士(日本で言うビオトープ管理士)に相談。翌2008年、園庭づくりプロジェクトが動き出しました。子どもたちの意見を取り入れて作られた計画案を基に、スタッフチームと保護者が

造成作業を行ないました。2012 年に、森から続くらせん状の階段や小高い丘を降りる滑り台があり、様々な野草が咲き、木漏れ日が心地よい園庭ができました。しかし、作業はこれで完了したわけではありません。新入園する子どもたちと保護者も参加できるように、常にどこかで何か新しい取り組みが行なわれていることをコンセプトに、園庭づくりの作業は今も進行中です。園庭は子どもたちだけでなく、保護者にも愛されています



森の幼稚園アプフェルボイムヒエン

森や草原の自然のなかで、五感を使って思い切り遊び、多くの直接的な体験をすることを幼児教育の柱としている森の幼稚園アプフェルボイムヒエンは、キリスト教自然幼稚園ノイエンハーゲン協会が運営しています。環境意識を高め、自然への理解を深めることをコンセプトにしているこの園には、2 歳から就学前の様々な年齢の子どもたち、約 20 人が通っており、自然教育などを専門とするスタッフがしっかりと対応をしています。園には 5000 m²の自然豊かな園庭がありますが、子どもたちは園での多くの時間を近くの森と草原で過ごしています。天候に関わりなく、雨や雪の日も、朝 7 時 30 分に集合して歩いて森に向かいます。自然の中で、風、水、土、木などにふれながら遊ぶことは、子どもの情緒を安定させ、攻撃性を抑制する一方、協調性や自発性を高めると言います。また、森の新鮮な空気を吸って思い切り身体を動かすことで、健康の維持につながります。四季折々の自然と向き合い、子どもたちは保護者たちも驚くほど多くのことを学んでいます。



AWO 保育所・幼稚園キンダーヴァルト

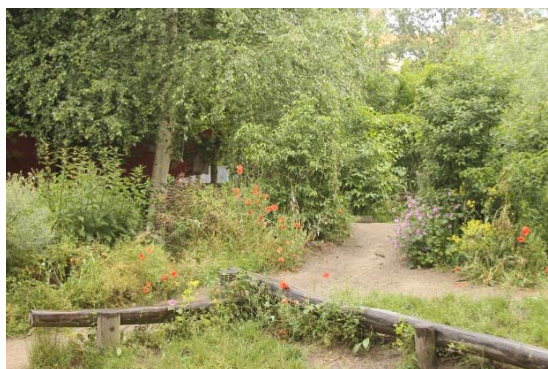
この園は、ドイツの医療・福祉分野の公益福祉団体のひとつ労働者福祉団体 (AWO) のベルリン中央支部が運営しています。ベルリン中心から北に約 11km の工業地帯に近い地域にあります。生後 8 週間から就学前の 6 歳

まで約 100 人の子どもたちが通うこの園は、文化や言語の違い、乳幼児と学童の年齢差に関係なく、また障害の有無にかかわらず一緒に遊んで学ぶグループ保育を実践しています。また、自然に身を置くことは、情緒を安定させ、思いやりや感動の心を育てるなど、人間形成上非常に重要だとして、自然教育を保育の主要な柱に据えて、園庭での遊びに積極的に取り組んでいます。木々が生え草花が咲き、昆虫や野鳥などの生きものもやってくる広い園庭は、身近な自然とのふれあいや、子どもたちの心を掴む楽しい発見などを可能にしてくれます。自然の中で思い切り身体を動かして遊ぶことは、精神面だけでなく肉体的な発達にも大きな効果があるとして、保護者から絶大な評価を得ています。



レーヴェンツァーン保育所・幼稚園

0 歳から 6 歳まで 121 人が通うこの園は、自然体験を保育コンセプトのトップに掲げ、自然いっぱいの園づくりに取り組んでいます。身近な自然とのふれあいを目的とした園庭改善は、保護者の希望で 2006 年に始まりました。学校や園庭ビオトープを推奨する NGO グリーンマハトシュレの協力で、園のスタッフ、保護者、子どもたちが力を合わせました。その努力が実り、園庭は徐々に自然体験の場所に変化していきました。野草が咲き、水、砂、石、土などの自然の素材にあふれた園庭は、子どもたちに多様な遊びと、昆虫や野鳥、小型ほ乳類といった野生の生きものとの出会いの機会を提供してくれます。園庭での遊びを通して、子どもたちは自然に対する理解を深め、自然と共存することの大切さを学びます。やってくるのは野生の生きものだけではありません。週末には保護者や子どもたちに混じり、近所の人々も園庭づくりを楽しみます。様々な人々とのふれあいは、子どもたちと地域との絆を深めることにも役立っています。園庭は今や地域にとってもかけがえのない大切な場所となりました。日々の遊びのなかで自然体験ができる園庭は保護者に大好評で、ウェイティングリストは常に一杯です。



キンダーヴェルト保育所・幼稚園

キンダーヴェルト保育所・幼稚園は、障害の有無にかかわらず隔たりなく一緒に遊ばせるインクルーシブ保育のほか、保護者と連携しながら園づくりを行なう「保護者イニシアティブ」を実践しています。五感を使って様々な世界を体験してもらうことを目標に、園庭ビオトープづくりに積極的に取り組んでいます。ベルリンの中心から南に 14km の団地の中にあるこの園には、1 歳から就学前の 6 歳までの 43 人の子どもが通っています。園庭は少し狭めですが、高低差のある変化に富んだ楽しいデザインがそれを十分カバーしてくれています。園庭ビオトープづくりを始める前の園庭は、遊びの可能性に乏しい場所だったので、子どもたちは積極的に外で遊ぶともしませんでした。そこで、園のスタッフと保護者のチームが「園庭を実質的に改善するプロジェクト」を開始。計画づくりには自然豊かな校庭や園庭づくりを行なう NGO グリューンマハトシューレの助けを借りました。保護者との密な連携により作業は思いのほか早く進みました。地域在来の野草が茂った小高い丘や小道、迷路、茂み、木登りや岩登りの場所、水遊びや砂遊びの場所のほか、虫宿などもあります。自然豊かな園庭での子どもたちの自発的な遊びに保護者も大満足をしています。



イエガーホフ保育所・幼稚園

この園は、人と人、自然と人とのつながりを大切にしています。2011 年に設立され、現在 1 歳から 5 歳まで 40 人の子どもが通っています。年齢の枠を越えて一緒に遊ばせる保育を行っており、それが子どもたちの成長にプラスの効果を生んでいます。また、親子のつながりを深めるために保護者とも密に協力しあっています。ハーフェル河畔の美しい景色が広がる 7000 m²の敷地には森や草原が広がっています。自然とのふれあいをコンセプトとしたこの園では、野外での五感を使った遊びを奨励しています。子どもたちは遊びを通じて環境に対する責任や持続可能な社会のための行動を学んでいます。保育者が発する「この植物は何?」、「この動物は何?」といった質問に子どもたちは嬉々として答えます。毎日の遊びのなかで様々な生きものとその役割を理解し、森の生きものも、園の子どもたちも「みんな違って、みんないい!」という多様性の価値について学んでいます。この園は、連邦政府が全国規模で進めている多様な野生生物に対する保護意識を育てるプロジェクト「保育所・幼稚園の園庭 一緒に多様性を発見しよう」に参加しています。子どもを通わせる保護者たちの評価はもちろん最高レベルです。





森のなかの保育所・幼稚園アンネ・フランク

ベルリン市郊外ヌーテタル地区にあるこの園は、まさに森のなかに建っているという雰囲気のエコロジカルな施設です。自治体が運営するこの園は、1969年に幼稚園として設立され、1974年から学童保育を開始し、1991年に保育所・幼稚園となりました。園児数の増加で園舎が手狭になったため1999年に増改築を行ないました。環境に優しい省エネモデル園として、ベルリン市の補助を受けて建設された園舎の屋上は、ソーラーシステムと地域在来の植物による屋上緑化が同居しています。園舎の周りには松などが生える森が広がり、子どもたちは毎日自由にのびのびと森のなかを走り回りながら、自然について身体全体で学んでいます。木立のなかに設置されている遊具は、自然の素材を使ったものが多く、幅広い年齢層に合うよう配慮がなされています。石など転ぶと怪我をする可能性のあるものも意識して置かれています。子どもたちの描く絵にはいつも大きな太陽が輝き、草や木、動物たちが生き生きと描かれています。森で遊ぶ子どもたちの表情は明るく、けんかも極端に少ないといいます。0歳から12歳まで400人の子どもが通うこの園は、保護者の人気は大変高く、常に数十人が予約待ちの状態です。



※写真はイメージです。

※視察先は諸事情により変更になる場合がございます。予めご了承ください。